

本資料は「教科書発行者
行動規範」に則り、配布を
許可されているものです。

小学校図画工作科 教授用資料

みんなであくわく！ てんらんかい

小学校図画工作科 教授用資料

みんなであくわく！ てんらんかい 非売品

2022年11月30日発行

執筆者 わくわくずこう研究会

松本 恵美子（練馬区立早宮小学校）

島田 美由紀（杉並区立杉並第三小学校）

三宅 暁子（板橋区立加賀小学校）

本間 順子（武蔵野市立大野田小学校）

砂金 綾（練馬区立練馬東小学校）

服部 鮎美（練馬区立開進第一小学校）

発行所 開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1

03-5684-6121（営業）

03-5684-6117（編集）

印刷所 株式会社大熊整美堂

【お願い】

本資料についてのご意見、ご感想を
お寄せください。

QRコードを読み取り、アンケート
にお答え下さい。



東京都豊島区で出会った6人。

今までお世話になった経験豊富ですてきな先輩方に
図工のおもしろさをたくさん教えていただきました。
私たちが学び、実践してきたことを後輩たちに受け継
がなくては！ という使命感からこの資料をつくりま
した。

もくじ

“てんらんかい”への道のり

- わくわくしちゃうタイムスケジュールを立てよう! 4
- アイデアをまとめた実施案をつくろう 6
- 技あり! 会場設営ノウハウ 8
- ドキドキ いよいよ“てんらんかい” 10

わくわく実践例

- その1 会場まるごと飾ってみよう! 12
練馬区立練馬東小学校 砂金 綾
- その2 “てんらんかい”の「楽しみ方」を伝えよう 14
板橋区立加賀小学校 三宅 暁子
- その3 子どもから大人までみんながつながる“てんらんかい” 16
練馬区立開進第一小学校 服部 鮎美
- その4 学校全体を展示場所に! 毎年行う“てんらんかい” 18
武蔵野市立大野田小学校 本間 順子
- その5 “てんらんかい”当日に楽しいことをやっちゃおう! 20
練馬区立早宮小学校 松本 恵美子
- その6 “てんらんかい”で図工のすてきを伝えよう 22
杉並区立杉並第三小学校 島田 美由紀

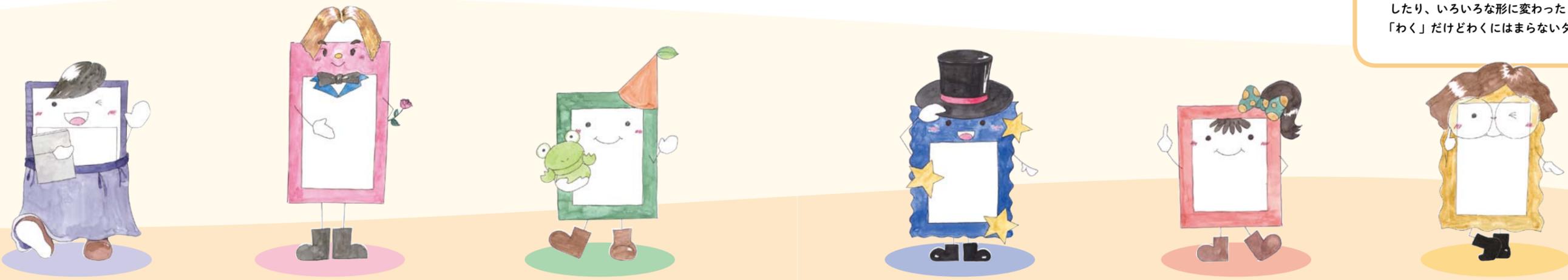
学校で、「てんらんかい」の担当になってみるみんな。
こんな悩みはありませんか？

前の時の資料はあるけれど、どうやっていたのかわからない。
他の学校ってどうしているんだろう？
このやり方で合っているのかな？
もっとおもしろいことをやってみたいな！

そんなみなさんのために、今までさまざまな「てんらんかい」を行ってきた個性豊かな6名の東京都図工専科が、みんながわくわくするてんらんかいを実現するためのノウハウや裏技をお伝えします。
先輩方から学んだこと、自分で失敗しながらつくりましたこと、子どもたちの姿を見て思いついたことなど、「てんらんかい」のやり方は、学校によって、先生によって千差万別です。
この中「」でも、あなたのこれからの「てんらんかい」に生かせるものがあったら幸いです。

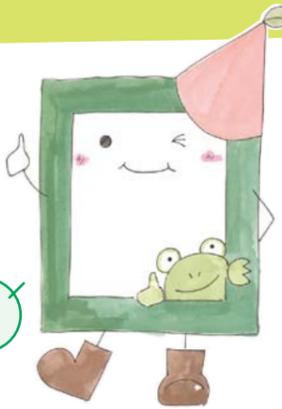
わくわくすいじ研究會

わっぴー
わくわく、はっぴーなことが大好きな“わっぴー”が「てんらんかい」づくりを紹介します。わっぴーはときどき「わく」からはみ出したり、いろいろな形に変わったりします。「わく」だけどわくにはまらないタイプです。

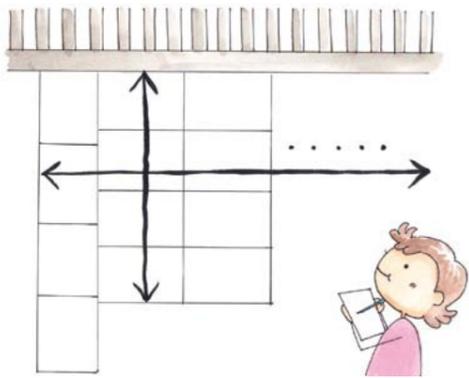


夏にやっておこう！ 直前にバタバタしないための下準備

展覧会に近づけば近づくほど忙しくなります。夏休みを有効に活用して、今のうちにできることは先にやっておきましょう。先手必勝！

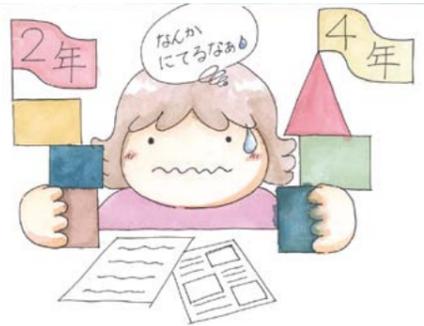


展示場所をよーく見て 採寸しておこう



つくっている作品が実際に展示しきれのか、早い段階で採寸をしておきましょう。体育館の図面などをもらっておくのも大切です。採寸は展覧会委員会の先生方とみんなでやるとベスト。展示台として使えるもの（ひな壇、長机、卓球台など）がどのくらいあるのかも確認しておきましょう。

これで大丈夫か！？ 題材の調整を！



2学期から作り始める題材をもう一度見直してみよう。
「学年でテーマや材料がかぶっている？」
「子どもたちの現状に合っていないかも…」
など、問題点が出てくることも。変更はまだ間に合います！全学年の題材のバランスを確認したり、どんな題材をやるか担任や講師の先生とも相談したりして、夏のうちに調整しておきましょう。

“てらんかい”の開催方法や、 イベント、共同製作について 考えておこう



感染症対策なども含めた展覧会の動線や一般公開の時の鑑賞方法などを決めておきましょう。展覧会委員会でいくつかのパターンを考えて管理職に相談するのもよし。また、イベントや共同製作についても具体的な内容を詰めて、他の先生方とも共通理解を図っておきましょう。

プログラム、作品解説… できるものからやっておこう



プログラムや作品解説は、見に行くまえに手元に届くもの。そこからわくわくを伝えたいものです。デザインに凝るもよし、あなたの考えている図工に対する思いを伝えるのもあります。プログラムや作品解説などは、直前だと結構負担が大きいので、夏のうちにある程度の形だけでもつくっておくとよいでしょう。

見本

令和〇年度 展覧会実施計画案 テーマ：アートでかなえよう！ あんな夢こんな夢

- ねらい（テーマについて）
 - ・テーマに込めた思い、図工としてのねらい、鑑賞のねらい など
 - ・保護者、地域への学校教育・美術教育の普及 など
- 日時
 - 12月 9日（金）9：00～16：30
 - 12月10日（土）9：00～16：30
- 場所 体育館
- 展示作品
 - ・図工作品（平面〇点、立体〇点、学年共同作品）
 - ・家庭科作品（〇点）書写作品（〇点）
- その他
 - 展覧会当日に6年生が図工でつくった衣装を着てファッションショーを行う予定。
- 予算 100,000円
 - 各学年 10,000円、その他 40,000円（台紙、展示用品等）
- 教員の係分担
 - ・総務（実施計画、会計、案内状 等）
 - ・庶務（プログラム、書表示、記録、アンケート 等）
 - ・会場（会場準備、片付け、展示、受付 等）
 - ・その他（音響、共同製作、実行委員 等）
- 今後の日程
 - ・展覧会委員会 ○月○日（会場の計測、布の確認）
 - 月○日（設営撤去）
 - ・プログラム ○月○日までに作成
 - 月○日発送、配布
 - ・体育館使用禁止期間 ○月○日～○月○日（授業、開放ともに中止）
 - ・設営期間 ○月○日～○月○日
- 学年の先生にお願いしたいこと
 - ・台紙貼り
 - ・名札作成
 - ・題字作成
 - ・作品個数チェック
- 鑑賞について
 - ・クラス鑑賞（ワークシートや感想用紙を書く）
 - ・たてわり鑑賞（たてわりのグループで鑑賞する）
- 管理当番について
 - ・会期中、1回は受付当番を行ってもらう。

1回目の概要案にここまで載せておきましょう。

前年度中に管理職や教務主任と相談して決めておきましょう。保護者鑑賞や児童鑑賞の時間も相談しておくといいです。

平面を2作品つくり、そのうち1点を出すという選択式もできます。

学校独自でやること、新しく実施することなどは早い段階であらかじめ相談しておきましょう。

展覧会担当がすべて行うのではなく、先生方の得意分野を生かし、教職員全体で分担できるようにしましょう。

体育館の使用禁止期間を早めに確認しておきましょう。

設営期間は余裕をもって設定しておきましょう。

学年の先生にお願いしたいことをあらかじめ明記しておくともスムーズです。名札は必ずチェックしてもらうといいです。

後日出す会場設営案とともにでも大丈夫です。

端的でわかりやすい実施案が、展覧会成功のカギ！
「誰が」、「何を」、「いつまでに」行っかが早めにわかっていると、みんながスムーズに動けます。

アイデア

をまとめた実施案をつくる

悲しい失敗談・・・

- ・早めに体育館使用禁止期間を設定しておかなかったら、直前の土日に使用予定が入ってしまい、広げておいた共同作品をすべて片づける羽目に・・・。
- ・会場設営は3日で大丈夫だろうと思っていたら、全然終わらなくて毎日残業。

展示のしかたは図面で伝えよう！

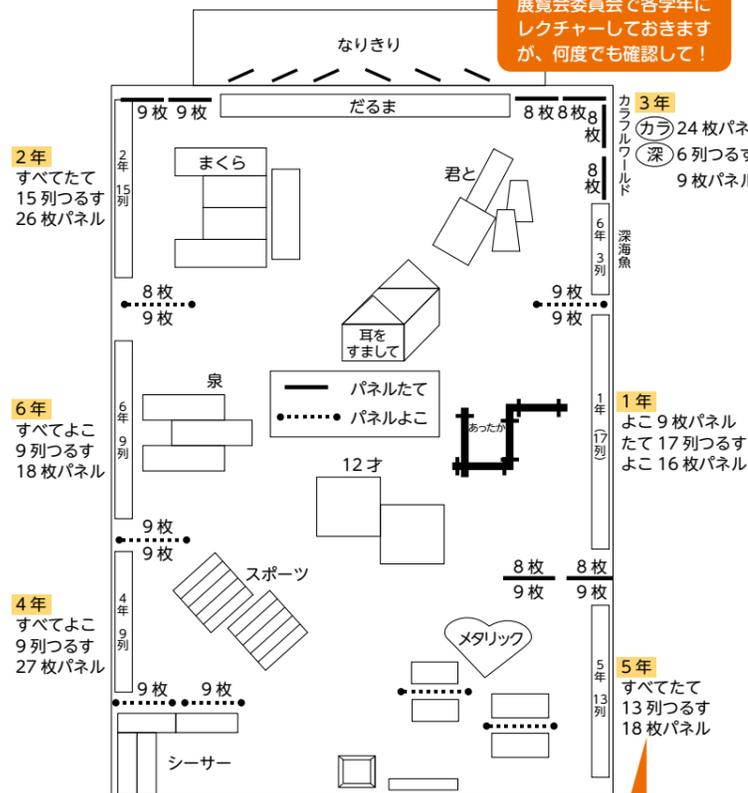
副校長に聞くと正式な図面が保管されている場合もありますが、図面は大まかな形で大丈夫。

図面や計算が苦手な人は、枠だけつくったら後は手書きで！

平面作品

「何段が何列、どこからスタート」がわかるように。表示の場所や半端になった場合の揃え方も考えて、余裕のある計画を。計算が苦手な人は、前回の記録写真から割り出す方法も！

基本的な連結のしかたは
 展示会委員会で各学年に
 レクチャーしておきますが、
 何度でも確認して！

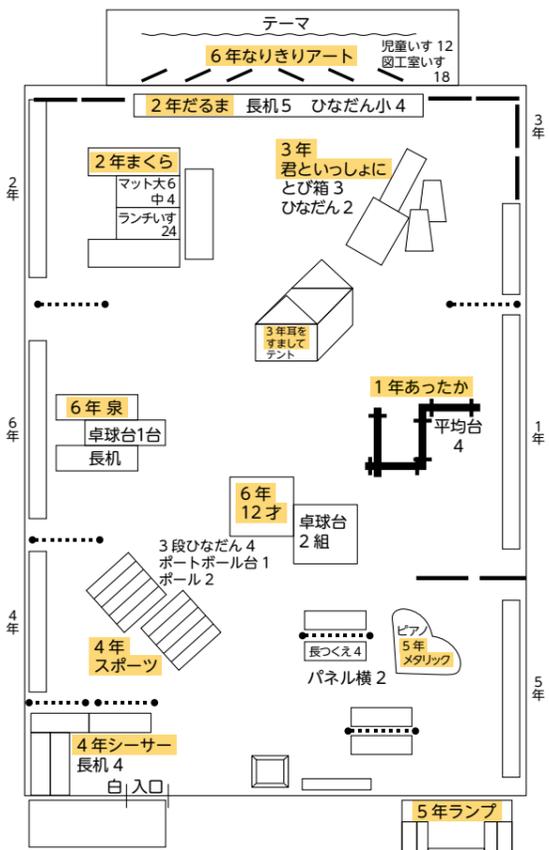


すべてたて作品で
 13列×4 = 52
 パネル2枚 = 18
 70名分のスペース
 見つらい場所や下段で調整。



立体作品 共同作品

事前準備ではこの図面を見て、展示台を運びます。何を何台使うかがわかるとすぐに設置できます。事前に展示イメージを共有できるとベストですが、こちらのイメージを押しつけすぎず学年の先生方に任せたいほうが、それぞれのよさが出てきてきだったりします。



ランチルーム
 1年ケーキ (台形机高6 低6)
 5年エプロン (長つくえ4 パネルよこ4)
 ひなだん大4 長つくえ4

事前に

体育館の使用停止期間を管理職と再度確認。地域開放や体育の授業、クラブの調整も忘れずに！
 共同製作などのつるしものの設置は、床が空いているうちに。最低限ワイヤーやロープは事前に付けておきます。
 「何をどこからいくつ運ぶのか」を計画し、数が揃っているか確認します。



1 子どもと一緒に体育館準備

子どもの動き、ゴールイメージを担当学年と共有し、全職員に声をかけ協力してもらいましょう。子どもの指導は学年、それ以外の職員への指示は専科、というように役割をはっきりしておくことも大切です。

- 大まかな流れは、
- ① 倉庫内の使うものを出す
 - ② 使わないものをしまう
 - ③ 使うものを所定の場所に置く
 - ④ 余裕があれば簡単清掃
- 校内は担任と移動を基本とし、倉庫などに大人を配置します。

階段や段差のある
 出入口にも
 大人を配置できると
 ベスト！



カッターマットに養生テープを貼って簡易ラベルを作成しておきます。「どこからどこへ」がわかると準備も片付けも混乱しません。



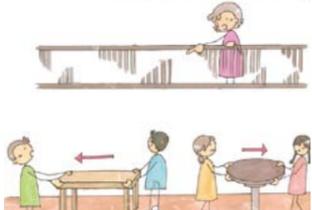
ラベルを貼りながら渡していくと、いくつ運んだっけ？ということもありません。



ガンタッカーや画紙、ペンチ、脚立など展示に使う道具類もまとめて運んでもらいましょう。ゴミ袋、画用紙やペンは必須！音楽室や理科室などから運ぶものも、事前に廊下に出してもらおうと安心です。

2 職員作業

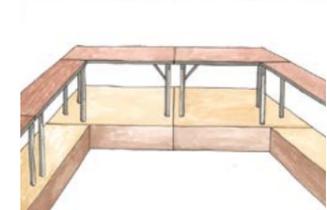
児童の会場準備の日の放課後に作業時間を設定し、全体で展示台やパネルの設置、布の振り分けをします。布が足りない場合にはすぐ手配すれば間に合います！
 その後、学年ごとに共同作品の設置、平面作品の展示を進めます。それぞれの締め切りを示して後は学年のペースで。心配な学年には「時間が合えば手伝いますよ。いつやりますか？」と声をかけます。認識違いのやり直しはお互い残念なので、任せつつも進捗には気を配って！



展示台は、フロアでスペースを見ながら、またギャラリーから全体を見ながら。指示を出して位置を決めます。



布は一度広げて、大きさや汚れを確認してもらいましょう。



布を貼る前の展示台の配置も記録しておくこと次回役に立ちます。

3 児童の立体作品搬入

前日に、立体作品と名札の保管場所、搬入時間を担任の先生方と確認しておきます。搬入にはできる限り立ち会いましょう。運搬時に壊れてしまった作品は、子どもに確認の上、一旦預かり修復します。欠席者の作品の搬入、未完成作品のスペースの確保も忘れずに！
 搬入日には、展示台の準備と児童の搬入経路の安全が確保できれば後はなんとかなります！

悲しい失敗談・・・

- 養生テープを輪っかにして布を固定したら、展示中にずりずりと崩れてしまい…作品を一度全部移動させてやり直すことに。
- スイッチなどを確認していなかったため、壁に思いがけない凸凹が！今更らずせず、平面展示がとこるところ浮いてしまいました。
- 会場準備が一段落して図工室に戻るとがっかり運び忘れが…心身ともにダメージが大きい！

運び忘れを後から一人で運ぶのはつらいよー！！



「何をどこへ」「手順」「ゴール」を共有して、自分がいなくてもみんなが動けることが理想的。人海戦術で一気に進めよう！

技あり！ 会場設営ノウハウ



順番は学校の規模や実能に合わせて調整してね。

片付け

事前に作品を持ち帰るための袋を用意しておいてもらい、子どもたちに取りに来てもらいましょう。その日に家に持ち帰ってもらうのがベスト！

立体作品 搬出

事前に

地区展に出品する作品はあらかじめ取り分けておきましょう。また、当日に休んでいた児童の鑑賞のために片付け当日の1時間目はまだ片付けずにとっておくとういでしょう。

布の撤去

布をたたむときは、しわにならないようにきれいにたたむ方法を伝えて行きましょう。油断すると、次回使うときにしわしわ！なんてことも。ガムテープのつけっぱなしも注意！

展示台 撤去

どこに片付けるか、実物に明記してあると間違えずに運びやすいです。ここは子どもの力を借りてどんどん進めましょう。

平面作品 撤去

台紙をガムテープでつなげている場合は、カッターナイフで切っていくと早いです。

共同製作 作品撤去

惜しい気もしますが、取っておこうとすると図工室が大変なことに！ 思い切って捨てることも大切。持ち帰らせるか、捨てるかして、この日のうちに片付けてしまいましょう。

完了

お、お、終わった——！

悲しい失敗談・・・

- ❦ 展覧会当日に、「先生、ぼくの作品がない」「私の作品が2つある！！」と2点つくってどちらか1点を選んで出すときは、細心の注意を払って確認しましょう。
- ❦ 地区展に出品する作品を取り置きするのを忘れて、すべて持って帰らせてしまったー！ もう一度各家庭に連絡し持ってきてもらうことに。
- ❦ 会場の片付けが終わって体育館はピカピカ。先生方もお疲れ様～と解散して図工室に戻ったら、共同作品や用具、よくわからなくて運ばれたものの山、山、山！！ しかも翌日授業を入れてしまった！ 誰かに頼むわけにもいかず、一人残って片付ける羽目に。

次回に向けて

反省や資料はすぐまとめておこう

みんなの記憶が薄れないうちに反省をまとめておきましょう。次回に向けて修正点があった場合は、可能ならば、今のうちに実施案を直しておくと、次回がスムーズです。また、資料はきちんとまとめて残しておきましょう。提案書類だけでなく、図面や、展示に使える物品の数、プログラムの印刷数なども記録しておくと、未来の自分、または次の方のためにも役立ちます。

“てんらんかい”当日

鑑賞指導、補修、成績付け やることたくさん！ でも・・・



当日は鑑賞指導、作品の補修、成績付け、地区展に出品する作品選び…とやることは結構あります。しかしここは、保護者や地域の方に直接子どもの活動の様子を伝えられるチャンス！ この作品に至るまでのストーリーを伝え、図工のおもしろさをどんどんアピールしましょう。

最高の研修の場！ たくさん見に来てもらって アドバイスをもらおう



展覧会は先生方にとっても最高の研修の場。他校の先生方にも案内を出して、たくさん見に来てもらいましょう。アドバイスをもらったり、今度は相手の展覧会を見に行ったりして、切磋琢磨していきましょう。

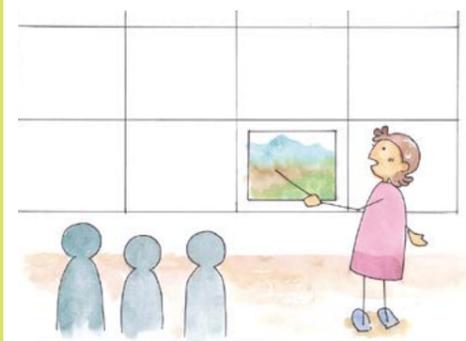
前日準備

もれはないか？ 入念に最終確認を！！



先生方をお願いしておいた各係の仕事の進捗状況をチェック。受付、案内表示、動線、照明、BGMなども必ず確認しましょう。また、担任の先生方には再度子どもの作品が全員分あるか確認してもらいましょう。

まずは先生方から！ “てんらんかい”の おもしろさを伝えよう



準備が終わったら、先生方を対象に展覧会OJT研修を行いましょう。会場をまわりながら、制作時の子どもの様子や題材のねらいなどを伝えると、図工という教科の理解にもつながります。

とうとう始まる！
準備はいい？

いよいよ始まりです！ここまですくがんばりましたね。当日は見に来てくださった方々とコミュニケーションをとりながら、ぜひ自分自身も楽しみましょう。

いよいよ始まりです！ここまですくがんばりましたね。



装飾用の作品を多めに!

1年生から6年生ばかりでなく、特別支援学級の子もたちまで、みんなで楽しく無理なく取り組める課題を開発してみましょう! 一つ一つの作り方は簡単! でも、それをつなげると…、想像以上の大迫力!! バリアフリーな作品は、小さな子からお年寄りまでが楽しめるすてきな作品・装飾になるはず。

クラブ活動の作品を多めにつくっておいたり、時間的に余裕のある、子どもやクラスや学年に作品を多めにつくってもらっておくなど常に多めの作品づくりと保管を意識しておきましょう。また、全校作品を会場はもちろん、会場までの空きスペース各所に散らばらせて飾るなど、にぎやかな装飾を目指しましょう!



ハニカムペーパーを使った、切ってつなげる作品。



あらかじめ大中小の円を描いたプリントを、切って貼り合わせるだけでできる作品。



ぬり絵の再構成を生かしたポスターは、どの学年でも取り組める作品。



こだわりポイント /

お手軽ですてきに見えるコツ

支持体のある作品

牛乳パックやティッシュボックス、ペットボトルなど、ある程度の大きさとしっかりした、形のあるものを元に作品を!

低学年の立体作品のスタートラインがグンと上がり、大きさのあるしっかりとした作品に。

大きくてすぐにできる共同作品

体育館にロール紙やロールビニールを広げ、担任の先生の手も借りて、一気につくり上げましょう!

わくわく 共同製作

***各学年「つながるアンブレラ」**
 各色の色画用紙に、プリントされた円を切り取り、半径に引かれた線に切り込みを入れ、その端を10cmほど寄せ、ステープラーでとめ、円錐状にこれを、等間隔でテグスなどで縦につなげ、天井などからつるします。



***各学年「墨deアート」**
 正方形(15cm×15cm)の半紙や和紙に、薄墨と墨を使って「モダンテクニック」をします。
 完成したものを、さまざまな形態に再構成することで共同作品となります。



子どもの作品を引き立てる展示方法



フクロウたちを高跳びの棒を利用した特製の枝にとませた、あたたかみで休んでいるかのような展示方法。



ロール紙の芯や、作品と合う材料を組み合わせ、奥行きと雰囲気演出。展示に使えないかどうか常に考えて材料と向き合っています。

会場まるごと こんなところまで!



ギャラリーや天井など空間をたっぷり使って。



会場までのわくわくを飾って盛り上げる。



わくわく
実践例

その

1

会場まるごと飾ってみよう!

会場は広くて大きい! 実際に飾ってみてから「もっと飾れた」なんてことも。あらかじめ会場をじっくり探索し、飾れる場所を確認しておきましょう。

練馬区立
練馬東小学校

砂金 綾



大人に

保護者は、でき上がった作品しか見る事ができません。製作過程に携わっている私たちだけが知っている、子どもの心の動きや想いを感じてもらい、作品に垣間見えるその子の魅力に気づいてもらえる工夫をしましょう。



会場で上映する製作過程のライドショー

4月の展覧会委員会で「図工の時間の子どもたちの写真を撮っておいてください」とお願いをしています。もちろん自分でも撮ります。



白模造紙を貼るだけで、簡易スクリーンに。

プログラムに、ちょっとスペースをつくっておき、「こんなところをがんばりました」「ぜひ見に来てね」と言うメッセージを添えてお家の方に渡しました。メッセージがなくても不自然にならない程度のスペースがポイントです！



製作の様子に「展覧会に向けてがんばっています」と言う一言を添えてWebページにアップ。直前でも間に合います！



「特別感を演出しよう！」

スペシャル感を味わってもらうために、先生も気分をあげていきましょう！

いつもの服装に、ベレー帽とスケッチブックを加えるだけで「絵描きさんみたい！」と子どもたちは目を輝かせてくれます。

また、保護者の方からも図工の先生だとわかりやすく、話もはずみます。



わくわく共同製作

デッドスペースを活用し、ギャラリーから壁に投影しました。



さまざまなアニメーションツールが出ています。自分が詳しくなくてもICTの支援員さんに相談して、操作がシンプルで保存、編集のしやすいものを教えてもらいましょう。

事前に7、8人のグループ分けをし、文具などの動かしたいものを決めてもらいました。後はどうなっちゃうのかお楽しみ！当日は、前の人の動かし方に対し「じゃあ、どうする？」をキーワードに自分なりのリアクションを順番に繰り返していきま

★6年生「どっとなっちゃうの」
「マ撮りアニメ」
アニメーションはつくるのも見るのも大人気！

子どもたちに

鑑賞の視点をパワーポイントにまとめて導入に活用しましょう。担任の先生も安心して指導でき、子どもたちも同じ気持ちで鑑賞に臨めます。

パワーポイントは一度つくっておくと、テーマやポイントを見直すだけでずっと使えるのでおすすめです。



①「展覧会ってこんな会だよ」
低学年はイメージできていないので、あらためて。



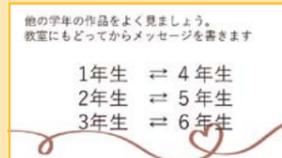
②「テーマについて」
展覧会に込めた思いを伝えましょう。



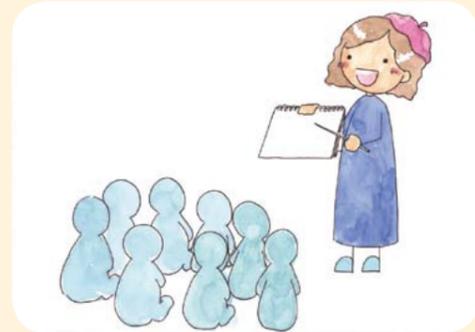
③「鑑賞のポイント」
見るポイントも押さえておきましょう。



④「鑑賞のマナーについて」
みんなが安心して楽しむために守ろうね、という気持ちで。



⑤「鑑賞タイムのながれ」
その時間に必ず見ておくことなどを確認します。



コロナ前は会場に入る前に、学年で集合して指導していました。学年で集まらない時期は、各教室でライドを見てから来てもらいました。大まかな流れは左の5項目、それぞれ必要に応じて複数ページになっています。

ただ「すごい！」で終わらないように、見方を深められるポイントを押さえます。テーマに沿った視点も入れられるとよいですね。例えば「つながろう」がテーマに入っていたときには「感じ方が似ているな」「つくり方を真似してみたいな」と思う作品（作者）を意識させました。



「大きな声を出さない」「触らない」「走らない」などは、そのページを見せて「思い出してね」とニッコリするだけでOK！
ビリビリムードにならず注意ができます。

ワークシートは書き込むことに時間がかかってしまうので、タブレット端末をメモ代わりに使うと便利！教室で各自写真を見て思い出しながら言葉にします。

展示だけでへとへと...ではありませんが、鑑賞タイムも共通理解のもと、みんなが楽しい時間にしたいですね。
非日常の空間に目を輝かせている子どもたちの姿を見ると、今までの苦労が報われますよ！

板橋区立
加賀小学校
三宅 暁子



アーティストとの コラボレーション

「表現」のプロであるアーティストとコラボすることで、子どもたちの表現がより多様に、より豊かに、そしてときに爆発します！
コラボのしかたはさまざまあり、作品製作でのコラボ、共同製作でのコラボ、そしてパフォーマンスでのコラボなどもあります。

内容については、アーティストや担任の先生方とも相談し、楽しいアイデアをみんなで考えてみてください。



写真1,2 蛍光絵の具を塗った筒をみんなで持ってグループでどんなことを表現するか考え「ブラックライトパフォーマンス」を行いました。振り付けや舞台全体の構成などをアーティストと一緒に考えました。

写真3 図工の時間に染めてつくったオリジナルTシャツを着て、6年生全員でダンス。しかも曲は「校歌」！！アーティストが振り付けをしてくださり、音楽の先生がロックにアレンジした校歌を生演奏してくれて、めいっばい歌って踊りました。

写真4 いらなくなった洋服などをリメイクした衣装を身にまとい、パレードを行いました。グループごとに踊りやパフォーマンスを考え、アーティストにも振り付けなどを一緒につくってもらいました。マスクも家庭科でつくったものです。

*上記の活動でお世話になったアーティスト
ダンサー・演出家・山猫団主宰 長井江里奈さん
自らの活動のかたわら、パフォーマンスキーストキーなどを通じて小・中学校や特別支援学校でワークショップを多数行っています。

みんなでアート

「みんなでアート」とは、保護者、教職員、地域の方々などとみんなでつくる、みんなの共同製作です。製作に参加をすることで、大人にも展覧会をより身近に感じてもらうことができます。



子ども、教職員、保護者一人一人に折り紙をいろいろな形や模様で切ってもらい、それを使って会場のシンボルとなる大きな木をつくりました。別の年には、近所の地区区民館などをお願いして、施設を利用されている方につくってもらったこともありました。

わくわく
実践例
3
その

子どもから大人まで
みんながつながる
“でんらんかい”

こだわりポイント

展覧会こぼれ話

展覧会の数日前、見に来る方々の期待をふくらませる最終兵器として、「これを読めばでんらんかいが10倍楽しくなる！展覧会こぼれ話」というものを配布しています。テーマに込めた思いや、実行委員の活躍、ワークショップやパフォーマンスの練習の様子、当日の会場の見どころなどをさくっと見られるように新聞形式にまとめてあります。

わくわく共同製作

高学年の共同製作においては、自分たちで展覧会をつくっているという意欲を高めるために「プロジェクト」という形でグループ活動を行っています。グループで一つの作品をつくる協働的な活動を行うことで、みんなのアイデアや得意分野を生かしたおもしろい作品がたくさん生まれました。

***6年生「プロジェクト 芯」**
4月から全校児童に呼びかけ、トイレレットペーパーの芯を大量に集めておきます。そしてグループごとに展覧会場内の展示場所をくじ引きで決め、「この場所とトイレレットペーパーの芯で何かができるかな？」と問いかけ、グループで製作していきます。
バスケットゴールの場所では、「ゴールからつるして水が流れるようにしたい」と、ひもを通して長くつなげ、水の波紋をつくっていました。



自由参加型 ワークショップ

とある放課後に、子ども、保護者、教職員を対象に自由参加型のワークショップを行いました。大人も子どもと一緒に活動する機会は、保護者や他の先生方に生き生きと表現する子どもの姿を間近で見られるチャンスでもあります。



大きなロール画用紙の上に寝そべて人型を取り、切り取ります。この人型に思い思いの模様を描き、「アートな影」の完成！



完成した作品は会場へ続く廊下に掲示。ちなみに上部の旗飾りもこの年のみんなでアート。

展覧会は、作品をつくって飾るだけではありません！
保護者も、先生も、地域の方も、アーティストもみんな巻き込んで、みんなが参加する展覧会というのはいかがですか？

練馬区立
開進第一小学校
服部 鮎美



毎年行うための 展示アイデア

毎年行っている展覧会なので、できるだけ展示方法を効率化して準備や片付けにける時間を短くしています。



平面作品にはひもをつけて簡単に取り外しができるようにしています。作品の入れ替えなども簡単にできるので、作品場所の調整がしやすいです。



作品を差し込むだけの展示ホルダーを活用して、台紙に貼る手間を減らしています。こちらは繰り返し使えます。



多摩産の木材を使った題材の「キャンドルスタンド」は卓球台に飾っています。卓球クラブが普段使っている場所なので、卓球台の設置もすぐできます。このように展示場所に近い台や机を使うようにして移動の手間を減らしています。



軽い半立体作品は、壁に園芸用ネットを取り付け、モールや結束バンドなどで結んで展示することも可能です（パネルの数に制限があるときに使える技です）。

こだわりポイント

「家庭科の先生との コラボレーション」

家庭科専科の先生と協力して展示の方法を工夫しました。ミシンの練習で使った黄色や水色のフェルトの布をつなげて共同作品のようにして展示しています。「かていか」という文字はボタン付けをフェルトに練習したものを紙皿に貼ってつくりました。絵画用の乾燥棚を展示に活用しています。



わくわく 共同製作



***5年生「空中遊園地」**
会場には参観者が遊べるスペースをよく設けています。未就学のお子さんも楽しく遊べるスペースがあると、会場がよりわくわくした空間になります。参観者が楽しめる作品にしようとして、児童のやる気も高まります。磁石で動くジェットコースターやアイススケート場、滑車のロープウェイ、くるくる回るメリーゴーランドや観覧車をグループで分担してつくり遊園地にしました。

作品が輝く 展示場所

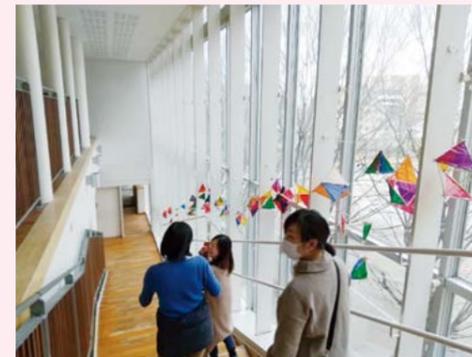
建築家の隈研吾氏がデザインした校舎の魅力である一面ガラスの空間を活用して、光をテーマにした作品を展示しました。空間のよさを生かした展示を目指しています。



ペットボトルにデコペンというペンで装飾しました。中には水で膨らむ、カラフルな透明の給水ポリマーを入れてあります。板などを使って積み重ねたり、給水ポリマーを入れたカップを並べたりして展示しています。



図工室を暗幕や遮光カーテンで暗くしてメラミンスポンジを使った灯りの作品を展示しました。



こちらの共同作品は割り箸を輪ゴムで結び、カラーセロハンを貼って光を通すモバイルにしています。白い柱は鉄製のため、マグネットフックをつけてビニールロープを張り、モバイルをつるして展示しています。

周年を祝う展示

本校の創立70周年記念をお祝いする展示です。

図工専科教諭だけでなく、特別活動部の先生や事務室の方々にも協力していただき、学校全体で取り組みました。



6年生が70周年のお祝いをテーマに、カラー養生テープを使って空間を飾る、造形遊びの活動に取り組みました。



通りに面した一番目立つ場所に70周年をお祝いする掲示物を飾りました。児童が描いたキャンドルの原画をボンジクロスというぼり旗用の布に拡大して印刷したものを壁に貼り付けています。



周年キャラクターの「ハッピーバースデー！おおのでん」を展示しました。地域のジオラマは未来の街をイメージして紙粘土でつくっています。

わくわく 実践例 その4

学校全体を展示場所に！ 毎年行う「でんらんかい」

学校によっては、体育館ではなく校舎内に展示する展覧会もあります。普段から建物の中をよく観察して、どこに飾った作品がよりすてきに見えるかを常に考えています。

武蔵野市立
大野田小学校
本間 順子



アートタイムいろいろ

当日に造形遊びをしたり、共同作品をつくることもあります。担任の先生のアイデア、音楽の先生とのコラボレーションにより楽しいものになっています。

【その他アートタイムいろいろ】
名前ですが、想像してみてください。

- 異次元体験ツアーズ●すてきなぼうしでショー●トントンネットワーク●カラフルパレード●くもにおいつけ●ふわふわくものって●はらべこあおむしかみしばい●おといるアート●きらきらスケルトンスペース●この場所いいでしょ●ペーパーテープコレクション●アーキテクチャーズ●ならべてならべて●ぬのぬのアート●もみがみ星人がご案内●でんでんむしどこだ●夜の森でコンサート



おかしはいえ (1年)



せんろはもつとつづくよ (2年)



カリスマカメラマン撮影会 (3年)



ボクラノス (4年)



名画の世界へようこそ (6年)



クリスタルスペース (5年)



もみがみ星人ライブ (4年)



@アートスペースフラッシュモブ (6年)

こだわりポイント /

「プログラム」



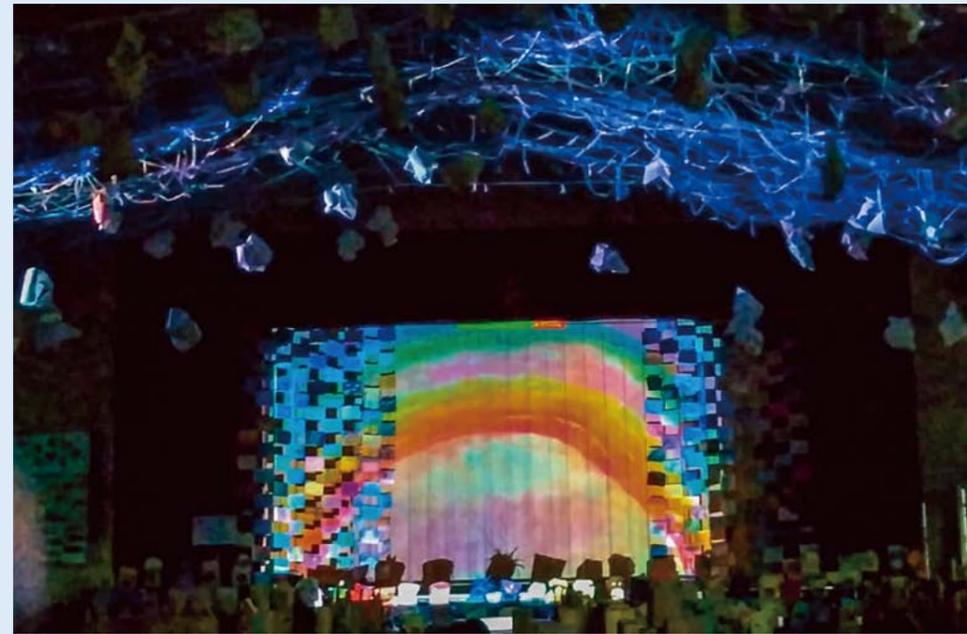
「展覧会楽しみ！ 見たい！」と思ってもらえるプログラムを目指してつくっています。作品のよさが出るようにカラーにするのがこだわりです。コスト削減のために、自校印刷で白い部分を多くして、中厚口の上質紙を使っています。WordやPowerPointなど、学校のパソコンに入っているソフトでつくれます。

アートタイムのスケジュールもプログラムに入れてあります。アートタイムは、学校中のさまざまな場所で学年によって時間をずらして行っています。体育館を使う場合の場所の確保や、屋外でする場合の雨天時の変更場所なども載せておきます。

開催日時	学年	パフォーマンス・アート	内容	開催場所
8:45	3	異次元体験ツアーズ	異次元体験ツアーズを通じて、異次元を体験するツアーを開催します。	2F 図書室
9:35	1	パプリカ	パプリカの曲に合わせてみんなで一つの絵をつくりたい。	2F 図書室
10:00	6	エア・ギター	音楽に合わせて、エア・ギターの演奏を行います。	校庭
開催日時	学年	つくるアート	内容	開催場所
8:45	2	せんろはもつとつづくよ	せんろはもつとつづくよの絵をかきながら、せんろはもつとつづくよをつくりたい。	1F 図書室
9:45	4	ボクラノス	ボクラノスの絵をかきながら、ボクラノスの絵をつくりたい。	3F 図書室
10:20	5	クリスタル・ワールド	透明な材料で、クリスタルのような絵をつくりたい。	1F 図書室

アートパフォーマンス

つくった作品を展示するだけでなく、作品を持ちたり、身につけたり、音楽やダンスと合わせたりして、子どもたち自身もアートの一部となってパフォーマンスを披露します。



エアプロジェクト (6年)

「空」をテーマに描いた絵をつないでグループで映像をつくり、そこに音楽科で取り組んだ「音楽づくり」の曲を組み合わせてつくったアートです。展覧会当日は映像に合わせて子どもたちが生演奏をして、幻想的なアート空間をお見せしました。



エア・ギター (5年)

段ボールでつくったエレキギター。エアならカッコよく演奏できます。子どもたちが自分たちで選んだ曲に合わせて弾き方やダンスを考えたライブを校庭で披露しました。



もみがみ星人のサンバ (4年)

紙を揉んでつくったパベットのもみがみ星人たちと音楽の授業で取り組んだサンバの生演奏とのコラボレーションです。ダンスは自分たちで考えました。



「でんらんかい」
「当日に楽しいこと
やっちやおう！」

展覧会当日を子どもたちが主役の日に！子どもたちのいきいきとした表現活動の様子を伝えるために「アートタイム」で、作品を使ったパフォーマンスや造形遊び、共同製作なども行っています。

わくわく共同製作



＊2年生
「くもの子どもたち」
紙でつくったくもを、くもの巣のところにすましました。



＊3年生「くもの巣」
体育館の150cmくらいの高さに、基本となるスラントープを張っておきます。そこに子どもたちがさまざまな長さのトープを結びつけていきます。それを天井から垂らしておいたトープでつり上げて完成です。

練馬区立
早宮小学校
松本 恵美子



子どもの思いが 伝わる工夫



子ども主体の ギャラリートーク

自分の選んだ作品を参観している人と一緒に鑑賞します。「タイトル当てゲーム」「お気に入りポイント発表」など、自分たちで考えてトークします。

学習の様子が伝わる 題材説明

発達段階に応じた学習設定や、ねらい、活動の様子を画像を展示することで、より作品の理解が深まり子どもの活動の様子が伝わります。



二次元バーコードを読み取り、製作過程をまとめたワークシートをタブレット端末で読み込みます。名札だけではわからない活動の経緯などを別画面で読み取ることが可能です。

「はなまるカード」の取り組み



子どもたちだけでなく、保護者や地域の方にもすてきなところを伝え合うカードです。書くことができる台なども鑑賞エリアとして設置します。

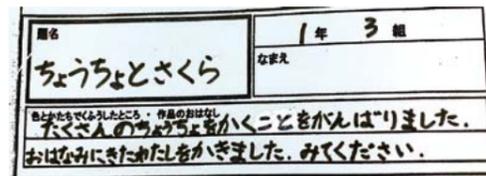
〇〇さんへ
△△がとても
すてきですね！

□□より

形・色・アイデアなど、
鑑賞のポイントを明確
にすることが大切！

名札の活用

名札に「形と色で工夫したところ」「アピールポイント」などの記載欄を設けると鑑賞の視点がはっきりして、タイトルだけでなく、子どものアイデアが伝わりやすいです。



スクールタクトなどのソフトを活用し、自分の気に入った作品をタブレット端末で撮影し、タブレット端末の中に自分だけの美術館をつくります。形や色、質感など、「すき」の思いが伝わります。



体育館の空間活用

展示空間をゆったりと設定することで、会場全体を味わうように配置しています。床に寝転がり、つってある作品を鑑賞することも。

現在、**学習指導要領**では主体的・対話的で深い学びが求められています。図画工作科は、まさに子どもたちが主体的に活動し、自他の造形的な活動の中から新たな価値を見つけ出し、学びにつなげる教科です。さらに杉並区では特に「学びの構造転換」として、子どもの学びの形の転換が求められており、「個別（自分で選ぶ・決定する）」「探究（追求する）」「協働（共に学ぶ）」ことを通して、学習を進めていく学習スタイルも求められています。図画工作科は、正に、**自己選択・自己決定**を繰り返しながら表現を追求し、活動する教科です。展覧会は、図画工作科ならではの学びの形、「**図工のすてき**」を多くの方に理解していただく絶好の機会です。

プロジェクト学習などを通して、自分たちでどんなことができるかを考え、展覧会で発表することも図画工作科としての学びを伝える方法の一つです。

学校だけでなく、地域の商店街や町のイベントなど、子どもたちの作品を展示する機会はたくさんあります。子どもの思いに寄り添い、子どもの活動の中での気づきや思いを伝えられるよう配慮し、いろいろな場で人とつながる機会を設定することが重要です。

こだわりポイント /

「展覧会を生かした学習活動」

展覧会は学校という環境を生かしたダイナミックな展示ができる行事というだけでなく、広い空間を活用した学習活動を行うことのできるよい機会です。

体育館や校庭、広場などを造形遊びなどの学習で使用し、そのまま展示をすることができます。また、ブラックライトなど、普段図工室でしかできないことも体育館の大きな空間で多くの児童や保護者、地域の人に体験してもらうことができます。

この機会にしかできないことを展覧会で十分に味わってもらおうように心がけています。



展覧会は、子どもたちの創造的な活動の様子を伝える大切な場です。図画工作科の学習のねらいや、大切にしていることなどをこの機会を生かして伝えられるように工夫しましょう。

杉並区立
杉並第三小学校
島田 美由紀



わくわく 共同製作

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というタイトルの通り、一人一人の木を組み合わせて、大きな造形物をつくりあげます。

一人90cm程度の小割の木に色をつけ、造形物の形に応じて三つから四つのグループに分かれます。

4メートルの垂木を構造の軸として、一人一人の木を太いゴムでつなぎ合わせていきます。一つのグループで一つの面を作成したら、それぞれの面を協力して組み合わせ、立体の造形へと変身させていきます。

マスキングテープやスランテープがあると、さらに色を追加することが可能です。

6年生ならではの、大きな造形物は会場のシンボルとして存在感が抜群です。また、片付けもゴムで組み合わせているので、簡単に元の状態に戻すことが可能です。

*6年生
「One for All, All for One」

